



徳山自然観察公園
ときどんの池 発起人（元徳山区長）

つとむ
橋本務さん

【第3章】

地域を創造する

地区の中だけではなく、外との交流を図りたい
発起人の橋本務さんが、公園のこれからを語る

このときどんの池は、未だ完成していない公園だと、元徳山区長・公園発起人の橋本務さんは言う。憩いの場の創出を、地域住民に呼びかけた人物だ。

なぜ公園を整備しようと考えたのか。そして、これからこの公園は、どんな発展を遂げていくのか。務さんに聞いた。

ホテルが舞う美しい景観を取り戻したかった
自然観察公園ときどんの池は、わたしが徳山区長を務めていたころ、農地関係の補助金などを活用して整備を始めた。

ここは、終戦後からずっと放棄水田となっていた土地です。でも元々は、ホテルがたくさん飛び交う、美しい水環境がある土地だったんです。ホテルが舞う季節には、家の中にまでホテルが迷い込んできたほど。「家の中にホテルを入れるんじゃない」と、よく親に叱られたものです。

放棄されてからは長年、茶園に入れる草刈り場として使

そして、この広大な公園を維持していくために、今も地区の皆さんが力を出し合ってくれています。自分たちの暮らす地域だから、自分たちの手で良くしたい。みんなここに愛着があるし、誇りもある。同じ気持ちで共有しているからこそ、この公園が今でも、美しい景観を保ち続けていられるんです。

これからわたしたちが成すべきこと

近年では、町外からたくさんの方が訪れるようになってきました。毎年のように県外から訪れてくれる人もいます。

次のページへ

4年以上かけてつくり上げた公園
ここに愛着があるからこそ
今も、地域住民が力を出し合って
美しい景観を保ち続けている

用されていました。生活排水が流れ、いつの間にかホテルの姿も見られなくなっていました。あるとき、知人のアドバイスで、ここに公園を整備しようと思いつきました。しかし関係する土地所有者は30人以上。土地借用の承諾を得るだけでも、多くの時間を要しました。

土地借用のめどが立ち、公園整備が始まったのが、平成9年のこと。4年がかりで整備して、この土地は今の形に生まれ変わりました。

平成10年には、公園の名前を地区内で公募。「ときどんの池」に決定しました。「ときどん」とは、その昔この付近

を治めていた戦国時代の武将土岐氏にちなんだもの。みんな親しみを込めて「ときどん」と呼んでいます。
憩いの場をつくらうと地域が一つに

この地を、そのまま荒地地にしておくのは寂しい。みんなが「憩う場所」として、誰でも気軽に立ち寄れる場所にした。昔のように、子どもたちが水環境や水棲生物と触れ合える場所にした。そんな思いを、地区の皆さんは理解してくれ、協力してくれました。地区全体を巻き込まなければ、とてもここまでものはつくれなかつたでしょう。